

# 微分・積分 第6回「微分(2)」

---

萩野 達也

hagino@sfc.keio.ac.jp

<https://vu5.sfc.keio.ac.jp/slide/>

# 今日の内容

1. 逆写像, 逆関数, 逆関数の微分
2. 逆三角関数, 逆三角関数の微分

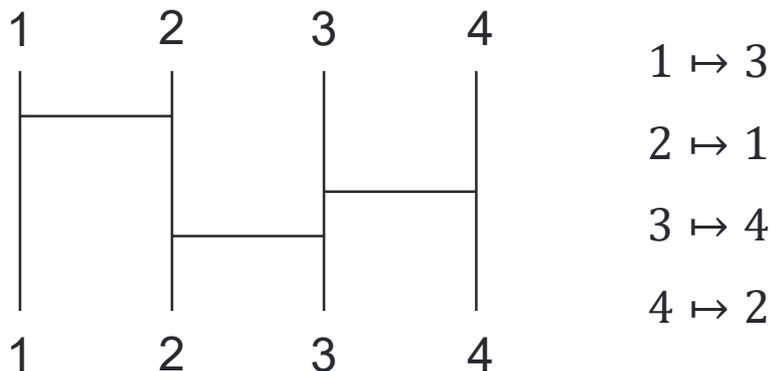
# 全射・単射

- 写像  $f: X \rightarrow Y$  に対して,  $\text{Im } f = \{ f(x) \mid x \in X \} \subset Y$  であった.

## 定義6.1

- $f$  が**全射**であるとは  $\text{Im } f = Y$  が成り立つ場合をいう. つまり「どの  $y \in Y$  に対しても  $x \in X$  が存在して  $y = f(x)$ 」.
- $f$  が**単射**であるとは「 $x_1 \neq x_2$  ならば  $f(x_1) \neq f(x_2)$ 」が成り立つ場合をいう. 同値な対偶条件は「 $f(x_1) = f(x_2)$  ならば  $x_1 = x_2$ 」.
- $f$  が**全単射**であるとは, 全射かつ単射である場合をいう.

- 例: あみだくじは全単射



# 逆関数

## 定理6.2

- 写像  $f: X \rightarrow Y$  が全単射であれば、写像  $g: Y \rightarrow X$  が存在して

$$g \circ f = \text{id}_X, \quad f \circ g = \text{id}_Y$$

が成り立つ.

- この  $g$  を  $f$  の逆写像といい、 $f^{-1}$  と書く.

- 実際、任意の  $y \in Y$  に対して、 $x \in X$  で  $f(x) = y$  なるものが唯一つ存在するので、 $g(y) = x$  と定義すればよい.

$$X \begin{array}{c} \xrightarrow{f} \\ \xleftarrow{g} \end{array} Y$$

- 特に、 $X \subset \mathbb{R}$ ,  $Y \subset \mathbb{R}$  のときに、逆写像を逆関数と呼ぶ.

# 逆関数(例)

## 例6.3

- 写像  $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ ,  $x \mapsto 2x - 4$  は全単射である.
- $f$  の逆写像は  $g: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ ,  $y \mapsto \frac{1}{2}y + 2$  で与えられる.
- 実際

$$x \mapsto 2x - 4 \mapsto \frac{1}{2}(2x - 4) + 2 = x$$

$$y \mapsto \frac{1}{2}y + 2 \mapsto 2\left(\frac{1}{2}y + 2\right) - 4 = y$$

なので  $g(f(x)) = x$  かつ  $f(g(y)) = y$ .

- $f(x) = 2x - 4$  の逆写像は, 方程式  $y = 2x - 4$  を  $x$  に関して解くことで求まる.

# 逆関数(例)

## 例6.4

- 指数関数

$$f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}_+, \quad x \mapsto e^x$$

と対数関数

$$g: \mathbb{R}_+ \rightarrow \mathbb{R}, \quad y \mapsto \log y$$

は互いに逆写像の関係にある.

$$g(f(x)) = \log(e^x) = x, \quad f(g(y)) = e^{\log y} = y$$

- 指数関数を  $h: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}, x \mapsto e^x$  と考えると、これは全射でないことに注意する.
- 関数  $h(x)$  の値域を  $\mathbb{R}_+$  に制限することで、全単射な関数  $f(x)$  が得られる.

# 逆関数(例)

例6.5

• 関数

$$f: \mathbb{R}_+ \rightarrow \mathbb{R}_+, \quad x \mapsto x^2$$

$$g: \mathbb{R}_+ \rightarrow \mathbb{R}_+, \quad y \mapsto \sqrt{y}$$

は互いに逆写像の関係にある.

$$g(f(x)) = \sqrt{x^2} = x, \quad f(g(y)) = (\sqrt{y})^2 = y$$

- 関数  $h: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}_+, x \mapsto x^2$  は単射ではないことに注意する.
- 関数  $h(x)$  の定義域を  $\mathbb{R}_+$  に制限することで, 全単射な関数  $f(x)$  が得られる.

# 逆関数の微分

## 定理6.6

- 微分可能な関数  $f(x)$  の逆関数  $g(y)$  が存在するとき,  $g(y)$  も微分可能で

$$g'(y) = \frac{1}{f'(g(y))}$$

- または

$$\frac{dx}{dy} = \frac{1}{\frac{dy}{dx}}$$

- ただし  $f'(x) \neq 0$  ( $\frac{dy}{dx} \neq 0$ ) を仮定した.

- $f'(g(y))$  は  $f'(x)$  に  $x = g(y)$  を代入して  $y$  の関数にするという意味である.

# 逆関数の微分(証明)

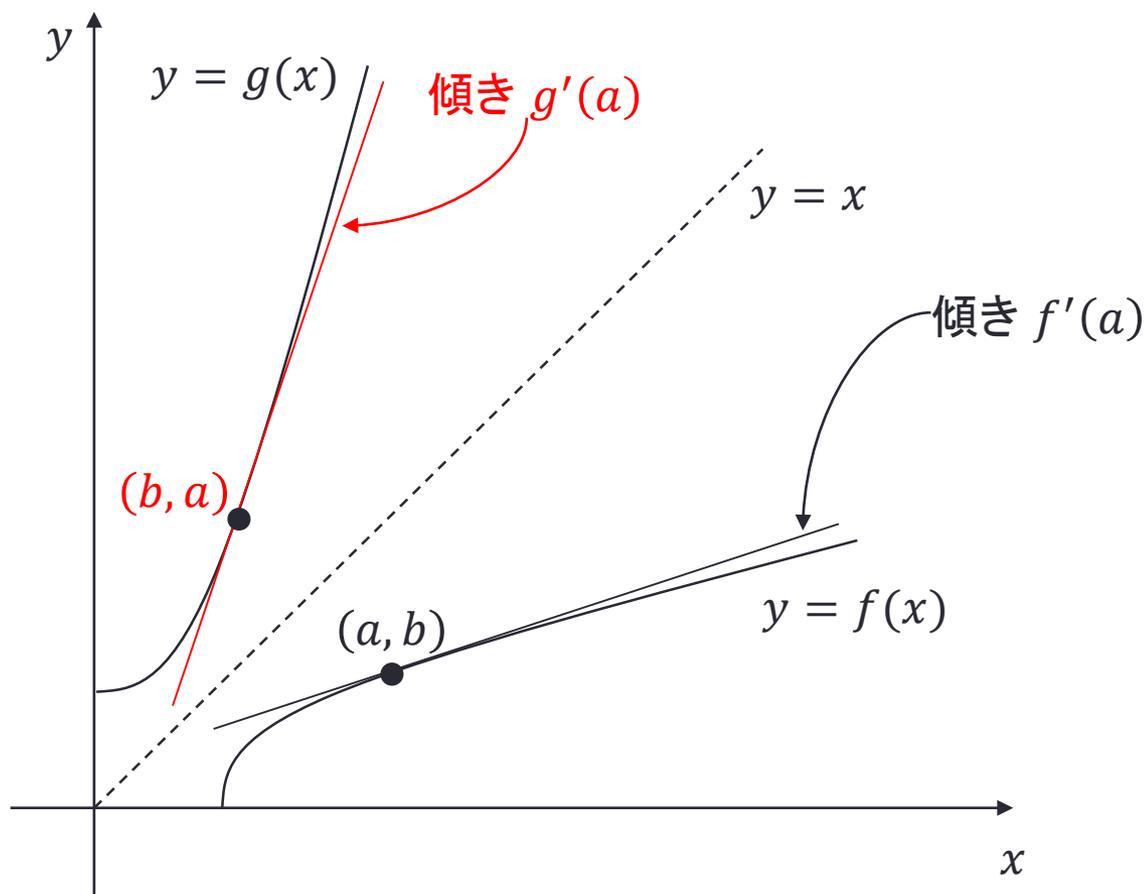
- $f(x)$  と  $g(x)$  が互いに逆関数であるから  $f(g(y)) = y$ ,
- 合成関数の微分の公式より  $f'(g(y)) \cdot g'(y) = 1$ .
- つまり,  $g'(y) = \frac{1}{f'(g(y))}$
- この証明では  $g(y)$  の微分可能性が暗に仮定されているので, 厳密には不十分である.

- $f(x)$  は微分可能なので連続であり, 逆関数  $g(y)$  も連続になる(自明でないが正しい).
- $y = f(x)$  とおくと  $\tilde{y} \rightarrow y$  のとき  $\tilde{x} = g(\tilde{y}) \rightarrow x$

$$\begin{aligned}
 g'(y) &= \lim_{h \rightarrow 0} \frac{g(y+h) - g(y)}{h} = \lim_{\tilde{y} \rightarrow y} \frac{g(\tilde{y}) - g(y)}{\tilde{y} - y} = \lim_{\tilde{x} \rightarrow x} \frac{\tilde{x} - x}{f(\tilde{x}) - f(x)} \\
 &= \lim_{\tilde{x} \rightarrow x} \frac{1}{\frac{f(\tilde{x}) - f(x)}{\tilde{x} - x}} = \frac{1}{f'(x)}
 \end{aligned}$$

# 逆関数の微分

- 関数  $f(x)$ ,  $g(x)$  が互いに逆関数であれば, それらのグラフは直線  $y = x$  に関して鏡映対称の関係にある.



# 逆関数の微分(例)

例6.7

- 関数

$$f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}, x \mapsto 2x - 4 \qquad g: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}, y \mapsto \frac{1}{2}y + 2$$

は互いに逆関数の関係にあった。

- 実際に導関数を計算してみると

$$f'(x) = 2$$

$$g'(y) = \frac{1}{2}$$

であるから、確かに

$$\frac{1}{g'(2x - 4)} = 2 = f'(x)$$

$$\frac{1}{f'\left(\frac{1}{2}y + 2\right)} = \frac{1}{2} = g'(y)$$

# 逆関数の微分(例)

例6.8

- 関数

$$f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}_+, x \mapsto e^x$$

$$g: \mathbb{R}_+ \rightarrow \mathbb{R}, y \mapsto \log y$$

は互いに逆関数の関係にあった。

- 実際に導関数を計算してみると

$$f'(x) = e^x$$

$$g'(y) = \frac{1}{y}$$

であるから、確かに

$$\frac{1}{g'(e^x)} = \frac{1}{\frac{1}{e^x}} = e^x = f'(x)$$

$$\frac{1}{f'(\log y)} = \frac{1}{e^{\log y}} = \frac{1}{y} = g'(y)$$

# 逆関数の微分(例)

例6.9

- 関数

$$f: \mathbb{R}_+ \rightarrow \mathbb{R}_+, x \mapsto x^2$$

$$g: \mathbb{R}_+ \rightarrow \mathbb{R}_+, y \mapsto \sqrt{y}$$

は互いに逆関数の関係にあった.

- 実際に導関数を計算してみると

$$f'(x) = 2x$$

$$g'(y) = \frac{1}{2\sqrt{y}}$$

であるから, 確かに

$$\frac{1}{g'(x^2)} = \frac{1}{\frac{1}{2\sqrt{x^2}}} = 2x = f'(x)$$

$$\frac{1}{f'(\sqrt{y})} = \frac{1}{2\sqrt{y}} = g'(y)$$

# 逆関数の微分(問題)

## 問題6.10

- $f(x) = \sqrt[3]{x}$  の逆関数を求め、逆関数の微分法が成立していることを確かめよ.

- $f(x) = \sqrt[3]{x}$  の逆関数は  $g(y) = y^3$  である.

- 導関数はそれぞれ

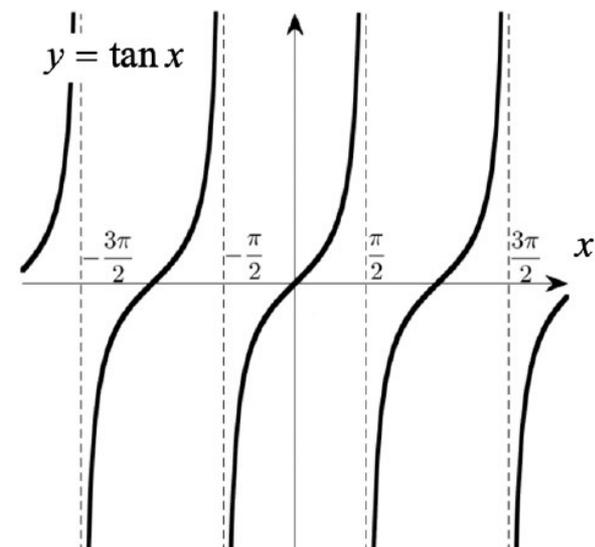
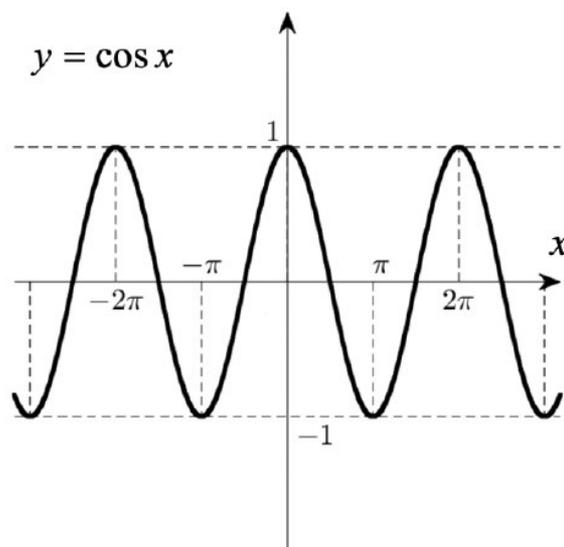
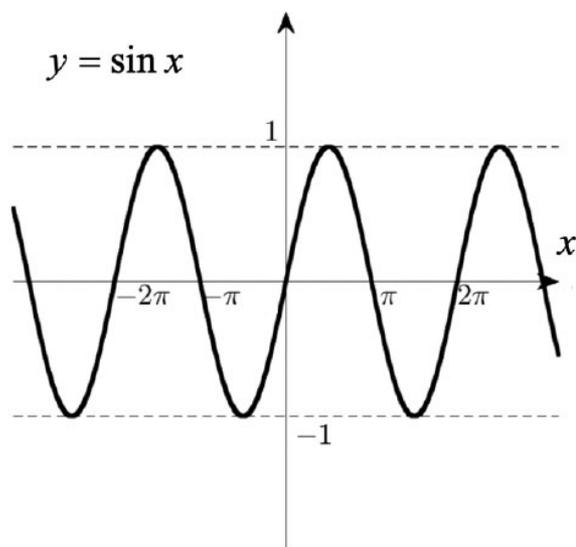
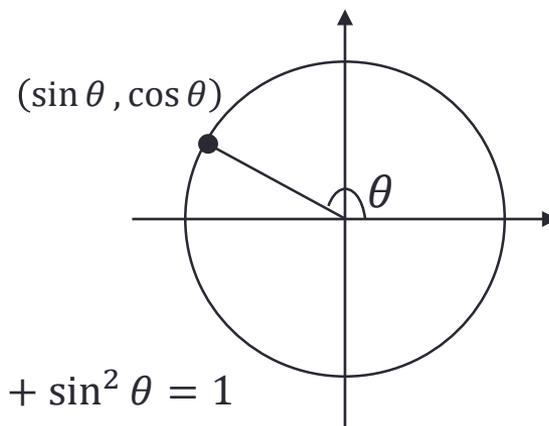
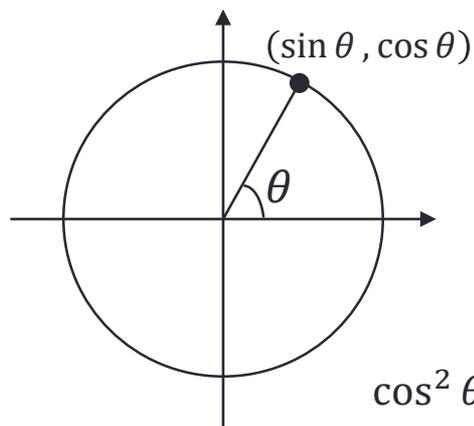
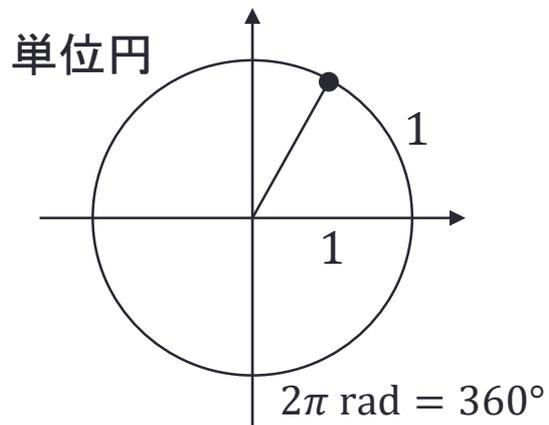
$$f'(x) = \frac{1}{3\sqrt[3]{x^2}} \qquad g'(y) = 3y^2$$

であるから、確かに

$$\frac{1}{g'(\sqrt[3]{x})} = \frac{1}{3\sqrt[3]{x^2}} = f'(x) \qquad \frac{1}{f'(y^3)} = \frac{1}{\frac{1}{3\sqrt[3]{(y^3)^2}}} = g'(y)$$

# 三角関数

- 三角関数  $\sin x$ ,  $\cos x$ ,  $\tan x$  を思い出す。



# 逆三角関数

## 定義6.11

- $\sin: \left[-\frac{\pi}{2}, \frac{\pi}{2}\right] \rightarrow [-1, 1]$  は全単射. この逆関数を  $\arcsin x$  と書く.

$$\arcsin: [-1, 1] \rightarrow \left[-\frac{\pi}{2}, \frac{\pi}{2}\right], \quad x \mapsto \arcsin x$$

- $\cos: [0, \pi] \rightarrow [-1, 1]$  は全単射. この逆関数を  $\arccos x$  と書く.

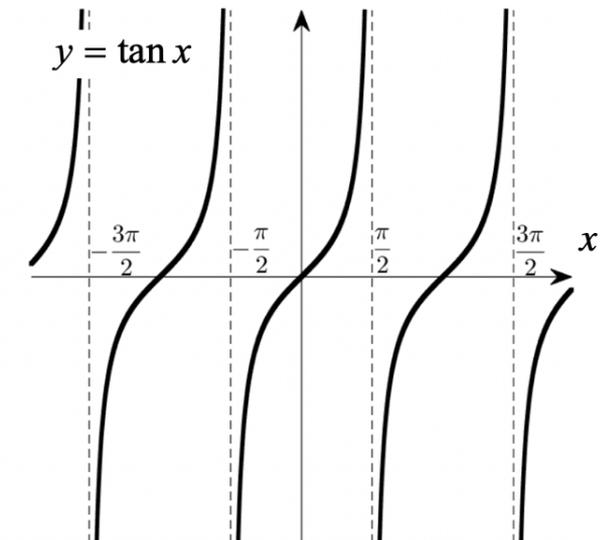
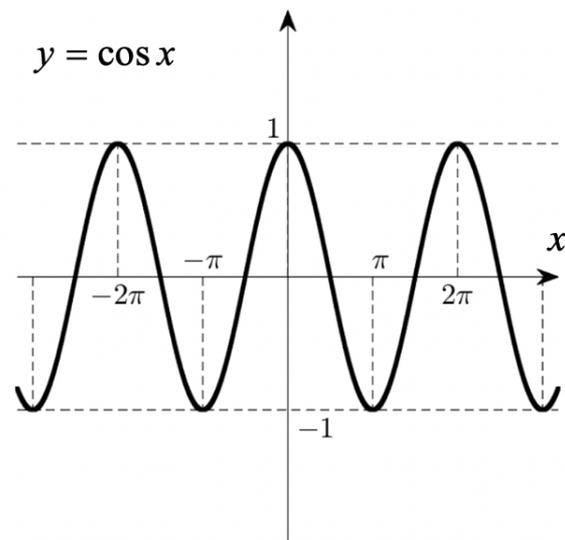
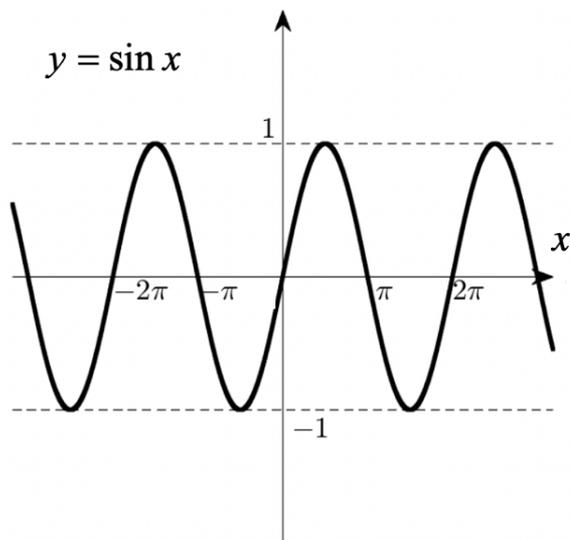
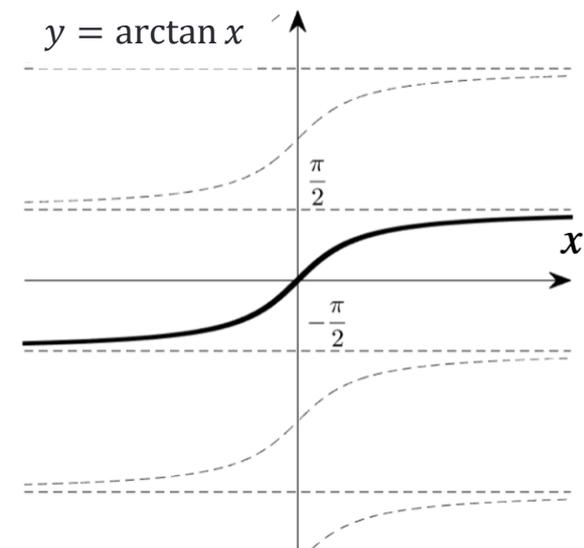
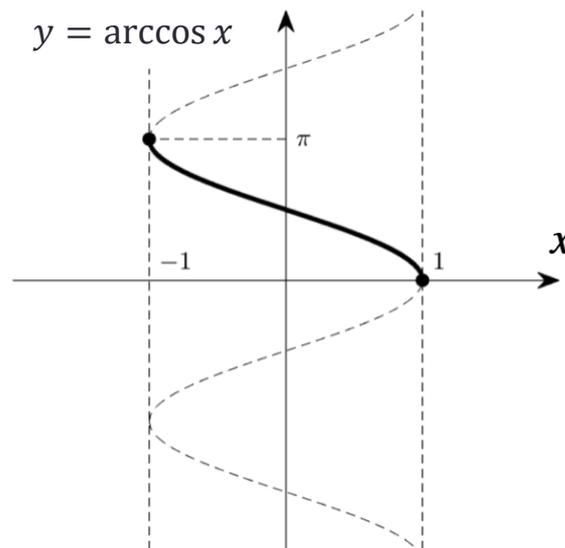
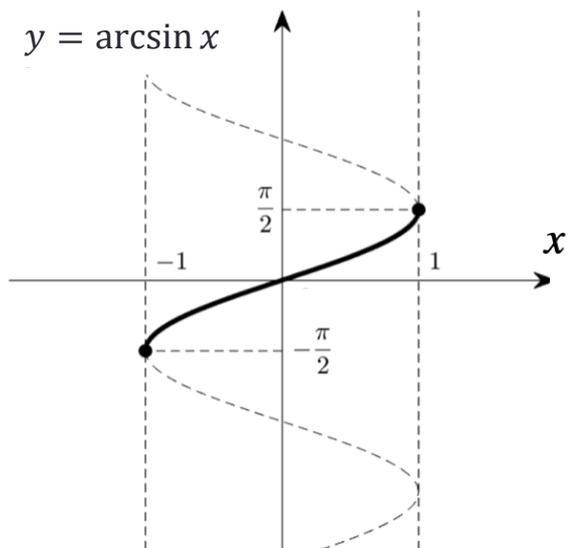
$$\arccos: [-1, 1] \rightarrow [0, \pi], \quad x \mapsto \arccos x$$

- $\tan: \left(-\frac{\pi}{2}, \frac{\pi}{2}\right) \rightarrow \mathbb{R}$  は全単射. この逆関数を  $\arctan x$  と書く.

$$\arctan: \mathbb{R} \rightarrow \left(-\frac{\pi}{2}, \frac{\pi}{2}\right), \quad x \mapsto \arctan x$$

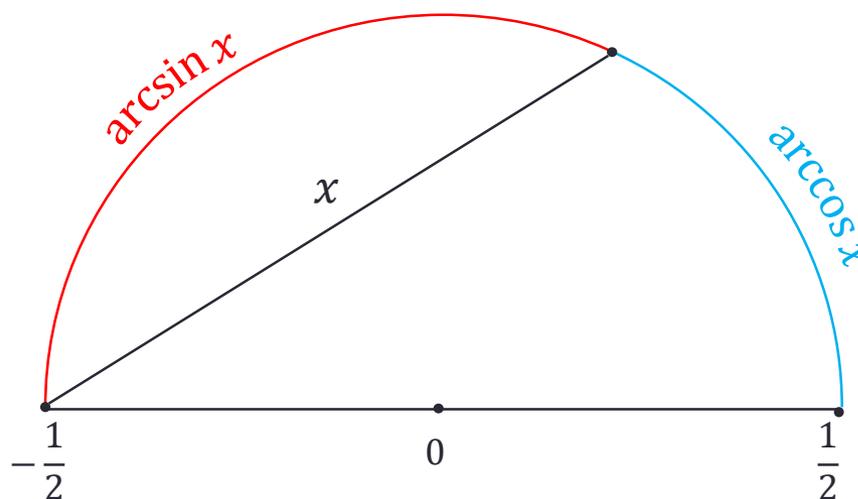
- これらは**逆三角関数**と呼ばれ, それぞれ  $\sin^{-1} x$ ,  $\cos^{-1} x$ ,  $\tan^{-1} x$  と書くこともある. (  $\arcsin x = \sin^{-1} x \neq \frac{1}{\sin x}$  )

# 逆三角関数(グラフ)



# 逆三角関数

- 実際,  $0 \leq x \leq 1$  に関して, 逆三角関数  $\arcsin x$  と  $\arccos x$  は半径  $\frac{1}{2}$  の円の弧(arc)の一部の長さを表している.



- これにより, 例えば

$$\arcsin x + \arccos x = \frac{\pi}{2}$$

が視覚的に理解できる. ( $-1 \leq x \leq 1$  で成立)

# 逆三角関数(問題)

## 問題6.12

• 次の値を求めよ.

1.  $\arcsin \frac{1}{\sqrt{2}}$

2.  $\arcsin 1$

3.  $\arccos \frac{1}{2}$

4.  $\arctan \frac{1}{\sqrt{3}}$

# 逆三角関数の微分

## 定理6.13

$$1. (\arcsin x)' = \frac{1}{\sqrt{1-x^2}}$$

$$2. (\arccos x)' = -\frac{1}{\sqrt{1-x^2}}$$

$$3. (\arctan x)' = \frac{1}{1+x^2}$$

1.  $f(x) = \arcsin x$  の逆関数は  $g(y) = \sin y$  なので

$$f'(x) = \frac{1}{g'(y)} = \frac{1}{\cos y} = \frac{1}{\sqrt{1-\sin^2 y}} = \frac{1}{\sqrt{1-x^2}}$$

2.  $f(x) = \arccos x$  の逆関数は  $g(y) = \cos y$  なので

$$f'(x) = \frac{1}{g'(y)} = \frac{1}{-\sin y} = -\frac{1}{\sqrt{1-\cos^2 y}} = -\frac{1}{\sqrt{1-x^2}}$$

3.  $f(x) = \arctan x$  の逆関数は  $g(y) = \tan y$  なので

$$f'(x) = \frac{1}{g'(y)} = \frac{1}{\frac{1}{\cos^2 y}} = \cos^2 y = \frac{\cos^2 y \cdot (1 + \tan^2 y)}{1 + \tan^2 y} = \frac{1}{1+x^2}$$

# 逆三角関数の微分(問題)

## 問題6.14

• 次の関数の導関数を求めよ.

1.  $\arcsin 3x^2$

2.  $\arctan(x^3 + 1)$

# まとめ

1. 逆写像, 逆関数, 逆関数の微分
2. 逆三角関数, 逆三角関数の微分